

ロボカップジュニア日本大会 2014 埼玉大学

運営基本原則

2014. 1. 25 v. 1 作成

2014. 1. 25 v. 2 会場設営、撤収に関する項目を追加

2014. 2. 18 「(9) 各ブロックへの全国大会参加チーム数枠の配分方法」の項目を追加
「(10) ルール」の項目を追加

2014. 2. 24 「(11)」「(12)」「(13)」の項目を追加

2014. 3. 13 「(14) チーム荷物の郵送について」の項目を追加

多くの方々のご協力により大会準備を進めて行くにあたって、さまざまなご判断をいただく中で参考としていただく基本原則を整理しました。

これらの基本原則にもとづいて、各チャレンジにおいて準備を進めていただきますよう、お願いいたします。あくまで原則ですので、判断に迷われる場合や、基本原則自体についての疑問、よりよいご提案がありましたら、遠慮なくお願いいたします。

なお【要確認】の項目については、順次、解決してご案内していきます。

この文書は、今後、新規に決まった事、変更になった項目について適宜更改します。更改は、玉島が管理し、週に2回を限度（定例、火曜日の夕方。2回目は金曜日の夕方）に、日付バージョンを付して修正追加を行います。

(1) 参加チームの資格、チーム数の下限設定について

今大会は、国内チームだけの参加とし、ブロック大会を経て選出されたチームとする。

・各ブロックに対して、各チャレンジ各カテゴリに最低1チーム枠を用意できることが原則

※2014年度の認定ブロック数は23ブロックですので23チームが最低チーム数となります

・2014年度のノード、ブロック実施状況調査表を元にそれを下回ることも可能

・現在の会場レイアウト案の範囲内で最低チーム数が確保できる運営プランを各技術委員会で検討いただく

・参加チーム数は多い方が望ましいが、それを下回らない範囲で、スタッフなどの確保が十分な範囲でチーム数は決定いただいて構いません

※当日、余裕のある運営を心がけられるように無理をしないようにお願いします

(2) 各チャレンジでの競技、スタッフのスケジュール作成について
各チャレンジの技術委員会で、技術委員長から提出頂いた【2014 日本大会】準備物.xlsx、【2014 日本大会】運営資料.xlsx をもとに、スタッフの配置、スタッフ一覧や備品一覧の作成、調整備品のリストアップ、人員配置を担当していただく。

具体的には、

- ・ 21 日の総会には実行委員（ブロック長）全員が参加できるように、スタッフの割り振りをあらかじめ検討していただきたい。
 - ・ 21 日のチームの来場については準備やミーティングを優先して必要最小限としていただきたい
 - ・ 開会式については、開催する場所の確保が困難なこと、またスケジュールがタイトなことから、22日朝（ダンスは21日午後にも場合によって）にチームリーダーミーティングを行うことで開会式に代えたいと考えているので、各チャレンジともにミーティングを設定していただきたい
- ※そのミーティング自体は、全体で22日の朝の同じ時間帯に設定できるのであれば、全体に対してストリーミング配信によって、代表理事からの全体へのご挨拶などをさせていただこうと考えています。時間設定については無理のない範囲でチャレンジ間で調整可能かご検討ください。
- ・ 各チャレンジともに審判講習会をブロック、ノードでの運営者も含めて実施していただきたい（今後の地域での普及のために、できれば技術委員同士での交流を深めて欲しい）
 - ・ それ以外、可能な範囲で、各チャレンジにおいてチーム同士の交流を図る参加者向け企画、ブロック、ノードの運営者同士の技術交流を図る（上の審判講習会も含めた）企画について積極的に検討いただきたい
 - ・ 理事会としては、今回、チーム同士の技術交流、ジュニアの活動の質向上を目指す活動として、「ポスタープレゼンテーション」および「口頭発表」について企画、運営をいたします。（理事野村担当）

(3) フィールド・アリーナの準備

- ・ まずは関東近県ブロックを中心に借用によって用意する（輸送費は予算計画で見込んでいます）

※別途整理している備品リストに借用先も含めて整理して行ってください。その際、およその輸送費も一緒に記入ください。

- ・フィールドやアリーナの種類の不揃いについては、不揃いがあることを前提に、チーム間での平等性が保てる運営方法を検討いただく
- ・どうしてもフィールドやアリーナが不足する場合には予算の範囲内で検討する

(4) 各チャレンジの備品、消耗品

- ・得点板、ストップウォッチ、下敷き板はジュニアジャパン保管分およびブロック、ノードからの借用により原則賄っていただく

※別途整理している備品リストに借用先も含めて整理して行ってください。その際、およその輸送費も一緒に記入ください。

(5) プロジェクタ、PA 機器、PC の準備

- ・教室にはプロジェクタ、スクリーンが設置されており利用いただけます (VGA 接続)

※ただし、教育学部 A 棟 1 階の会議室、A 棟 3 階のセミナー室は設置されていません。また、教室に PC は設置されていないので、ノート PC などを別途準備する必要があります

- ・ダンスについては 100 インチを越すスクリーンが必要な場合はレンタルを検討する必要があります

- ・ワイヤレスマイクは、教室等で使用するポータブル型を数台は借りられます
- ※来場者への案内などで使えるよう各チャレンジの競技場所に配備するようにと考えています

【要確認】ポータブルワイヤレスマイクの準備

※C101 教室は大講義室ですのでマイク設備もついています

- ・ダンスの PA 機器については、パソコンから PC 用小型スピーカーで音を出す程度であれば準備できますが、大型スピーカーを必要とする場合はレンタルを検討する必要があります

(6) 印刷物について、プリンタについて

印刷物は持参が原則とします。会場近くのコンビニなど印刷できる場所の案内は用意する。大学で印刷にあたっては以下を検討する必要があります。

【要確認】印刷原稿の提出期限

- ・会場案内、部屋案内など大会全体で必要となる掲示について用意する必要がある

【要確認】 掲示一覧と掲示物データの作成が必要

- ・それ以外については各チャレンジでご用意いただくことになります

【要確認】 清算方法

- ・当日の印刷にはプリンタの準備が必要になりますがこれも借用で用意が原則

【要確認】 プリンタの準備方法について検討が必要

(7) 会場設営、撤収について

- ・当日の準備作業に入る前に、各教室の写真などで備品の数、レイアウトの記録をとること

- ・撤収、片付けの際は、現状復帰をすること

- ・破損品、紛失品があった場合は速やかに報告すること

(8) 世界大会に関連して

2014 世界大会はブラジルです。案内したように、ブラジルは今までと異なり、以下のような状況です。

(1) 日本からの直行便はなく、乗り継ぎで 2 日かかります。

(2) 旅費もかなり高額になります。

(3) 入国にあたって、ビザが必要で、ビザ取得のために手続きも他国に比べ手数と時間がかかります。

http://nagoia.itamaraty.gov.br/ja/_rrrr_.xml

今回、日本大会後の世界大会へ参加チームの参加手続きを迅速に進めるために、

(4) 日本大会エントリー前に、上記の状況を理解して頂いた上で、日本大会エントリー時に、選抜された時には世界大会に「参加する／しない」の意志表示をお願いします。

(5) そして、

日本大会の成績は、「参加する／しない」の意志表示とは関係なく決まります。世界大会の参加チームは、「日本大会の成績をもとに、参加する」意志表示をされたチームを対象に選抜します。

(9) 各ブロックへの全国大会参加チーム数枠の配分方法

各カテゴリにおいて、ノード参加チーム数が 1 以上あるブロックに最低枠 1 を配布後、残り枠をノードエントリー数による比例配分を行う。比例配分方式は各技術委員会で決定する。

(10) ルール

【サッカーチャレンジ 2014 年公式ルール】

- ・ サッカー独自リーグ (旧 A ライト) 2013 年の日本大会ルール適用
- ・ サッカー B 2013 年の国際ルール適用

※試合時間については、埼玉大会では短縮して実施するリーグがあります。

詳細につきましては、別途スケジュールを公開させていただきます。

※ルールに以下の補足事項を追加します。

1. 故障タイム及びアウトオブバウンズ退場タイムは、選手が自分で管理する。
具体的には選手にタイマーをもたせて、時間がきたら自分でコートに戻させる。

得点が入ったら、退場して 1 分 (※) 経過していなくても、コートにロボットを戻せるようにする。

つまり、得点が入ってリスタート (?) 時にはすべてのロボットをコートに置くことができる。

これにより、時間管理がやさしくなる。

※また、試合時間が 5 分ハーフの場合、退場時間を 1 分でなく 30 秒とする。

2. 片方 (A) のチームが 2 台故障した為、相手 (B) チームに 1 点加算される。

A の 1 台が故障 1 分後に復帰した時に追加点はされない。

(1 分経っても復帰できないときはその時点で追加点される。)

- (11) 屋内履きは不要です。会場内は外履きで OK です。

傘立てはありません。各自で持ち歩いてもらう必要があります。

雨風をしのげる待合室的な場所は 21 日と 23 日のみあります。

- (12) 印刷物は各チャレンジで用意して頂きます。

費用を具体的にどのように清算するかは別途ご連絡します。

各技術委員長から印刷費用の見積もりのご提出をお願いします。

(印刷が必要な資料の種類、枚数)

- (13) メンバー全員がプライマリの年齢のチームがセカンダリに出場を希望する場合への対応

- ・原則、全てのチャレンジで「認めない」こととします。

・ただし、サッカーはオープン (Soccer B) があり、レスキューも Rescue B がありますので、

サッカー⇒セカンダリではなくオープン (Soccer B) であれば認める

レスキュー⇒Rescue A セカンダリではなく Rescue B であれば認める

とさせていただきます。

・ダンス、CoSpace レスキューについては、プライマリとセカンダリで、ブロックレベルでのチーム数に 差があると思いますの

で、倍率が低く有利になろうと思ってセカンダリを選ぶ可能性を避けられないので認めないことにすべきだと考えます。

・サッカー、レスキューについては、セカンダリへの挑戦を好意的に解釈すると技術力の向上を目指してだと思しますので、それであれば（特にサッカーはすでに国内においては B への移行を進めるように方向性が出されていますが）国際委員会としてはより高い技術を目指すのは B であるという考えですので、B への参加は認めてよいと考えます。（国際委員会委員の意見）

・ただ、その場合、各ブロックからどのように推薦するか、また日本大会から世界大会へどのように推薦するかは、公平性を担保できる方法を、各ブロック内および日本大会実行委員会にて検討してもらう必要があります。

（14）チーム荷物の郵送について

チームの荷物は、埼玉大学では受け取ることができません。

従いまして、ご宿泊のホテルなどに郵送して頂き、

各自で会場に持ってきて頂くこととなります。